

専門部会活動報告書

令和2年度（2020年度）
明石市地域自立支援協議会

はじめに

1. 専門部会等の運営にかかる事務局方針について

“明石市障害者計画”及び“明石市障害福祉計画・明石市障害児福祉計画”の基本理念を踏まえて、

- 専門部会及び相談支援連絡会は、障害福祉サービスの提供等の実務を通じて把握した、①支援体制に関する課題、②既存の制度やサービスだけでは解決が困難な事象、③繰り返し起こっている類似の問題などをテーマ別に整理・集約し、優先的に解決すべき課題を選定したうえで運営会議及び全体会へ報告します。
- ワーキングは、さまざまな所（場所、拠点、機会）に、さまざまな形（テーマ・プログラム）で人が集まる「場」を作り、関係機関等の有機的な連携の下で地域の課題の改善に取り組みます。

2. 令和2年度（2020年度）の専門部会活動報告について

令和2年4月。新型コロナウイルスの感染が拡大するなか、オーバーシュート(爆発的感染者拡大)を回避するため、日本政府は、新型インフルエンザ特別措置法に基づく緊急事態宣言を発出し、外出の自粛やイベント、集会等についても自粛することを強く求めました。このような社会情勢を鑑み、市障害福祉課と協議のうえ、各専門部会（暮らし・しごと・こども）及び、相談支援連絡会の会合・活動は中断することになりました。その後、市障害福祉課と専門部会等の再開に向けた協議を持てたのは12月のことでした。

令和3年3月。オンライン（Zoom）を併用することにより、「暮らし部会本会議」、「しごと部会本会議」、「こども部会本会議」をようやく開催できました。各部会の委員からは、新型コロナ感染症拡大による「障がいのある人やご家族の生活への影響」や「支援の場で起こっていたこと」などのさまざまな事象が報告されました。

これらの報告も踏まえて、今後の明石市地域自立支援協議会の活動の在り方について協議できればと思います。

くらし部会報告分

- ヘルパー訪問時、利用者宅の体温計が壊れているあるいは無く、探しても無いし、熱がありそうなのに体温測定ができず困った。見た感じでは 38℃ありそうで、顔は発赤、ヘルパーが感染を恐れ、対応に悩んだ。そういう利用者が複数いた。また、常備していても使う事がなく、壊れていた事もあった。37.5℃以上は利用を断られる中で、事業所から持ち出し、検温。
- 利用者家族（弟）が新型コロナを発症した。家族は沖縄に行っていたが、その頃沖縄で感染が広がっていた。帰宅後、弟は発熱したが、利用者本人に対して、そのことを黙っておくように言い、利用者が来所。本人が話したため事態が発覚。慌てて本人を自宅に送り、保健所に連絡、結局家族は新型コロナ発症。利用者本人は陰性であった。複数の職員が関わっており、車等も消毒し、大変だった。その後体温計、防護服、ゴム手袋等感染予防の物品を徐々にそろえ、ヘルパーに配布出来る様になった。利用者が新型コロナだと言うと、利用出来ないのではと思ったのかもしれないが、事業所としては言ってくれないと、対応に困る。
- 体温計が高かったが事業所で購入し、配布。新型コロナ疑いの利用者が出た際、病院受診等、対応した。防護服は無かったが、サラサラした服を着て対応。結果は陰性だった。
- 生活介護事業所が休みになったことで、移動支援の利用希望が増えた。一方、元々利用していた人が利用を控え、現在でも控えたままの人がいる。
- 入所施設は面会外泊外出を控えるように家族、利用者理解を求める文書を発送。この 1 年で 6 通。春先の緊急事態宣言後は、強い措置をとることとし、面会は居室ではなく専用スペースのみでの実施、外出外泊は不要不急以外は不可とした。入所利用者で家族と定期的に会えていた方は面会が出来ないことで不穏になりやすかったり、発作を誘発するのではないかと心配をしながら対応してきた。利用者の行動制限について、ここまでして良いのかと言う悩みは施設内でも協議しながら、この 1 年間、現在も継続してやってきている。家族からも、これほど長期間本人に会えないことは無かったとの声が多く、不安不満の声が聴かれた。施設としてもそつたい訳ではなかったが、その都度話をして理解を求められなかった。比較的家族は理解してくれたのはありがたかった。
- 生活介護は 11 月に利用者家族内感染がおこり、保健所が入り、2 週間の利用停止。通所職員全員が濃厚接触者、一部利用者が濃厚接触者となった。濃厚接触者でなくても検査対象者になったので、営業が出来ず、2 週間の営業停止。その間、家族から、入浴できない等の利用者の生活がままならないとの相談があり、他事業所の利用については、ハード面で社会資源が十分ではなく、基幹 C にも協力を仰ぎ、この間何としても入浴出来る様にとの家族には、別事業所を利用する様、調整等をした。もしもっと多くの利用者からその要望があったら、対応のしようが無かったと感じる。ヘルパーや家族の自助努力で頑張ってもらえたのがありがたかった。
- 代替サービスとなったのは 2 名（入浴）。通所 60～70 名、そのうち半数が週 5 利用。保健所対応等に追われ、代替をどうするかまでは対応できなかった。家族から連絡があった方のみ、代替を調整。通所職員全員が濃厚接触で出勤停止になり、相談員と連携しながら調整。代替を希望する人がほとんどいなかったのが不幸中の幸い。代替希望者も一番は入浴、他は何とか入浴は自宅対応不可の方 2 名について、明石市外の他事業所で入浴支援を受けた。
- 例えばヘルパーで対応といっても自宅環境上不可の方が多く、重度身障の方には、代替と言っても他の事業所の利用しか無理な場合が多い。新型コロナによる影響と説明する場合、相手側の事業所の理解があったから良かった。その事業所にも利用者があり、検査対象になり、陰性と言われても受け入れが難しいと言う事業所もあると思うので、相手側の理解があってこそ実現するもの。代替は実際厳しいと感じた。
- 1 か月程風評被害があった。事業所内で出たのではなく、家族間感染であったが、新型コロナが出た事業所という情報が翌日からまわり、その対応には心が折れる感じがした。
- 濃厚接触で自宅待機の方に対して居宅介護が入れなくなり、在宅が難しい人を短期入所で受け入れた。施設入所者と同じフロアで隔離対応する事になったが、入所者とのゾーン分けが難しかった。事前に入念な準備をして

いないと、対応が困難。

11. 物品関係では、近隣法人や社協から提供してもらえたが、防護服を 1 日あたり 10 枚近く使う為、数が足りず、有事の際の対応について考えさせられた。入所施設でもし発生したら、どうしようかと思う。入院出来るかどうか分からないので、施設で出ない様に 1 年間対応してきた。顔認証の体温計、パーテーション、防護服の購入をした。
12. 行動制限について 4 月以降段階的に緩める予定だが、外出外泊中の健康観察を依頼するとか、出来る事はして頂こうと思っている。しかし正解が何か分からない。
13. 体温計の件、相談を受けたが、社協内にも基幹 C にも備蓄なく対応できず。基幹の利用者でも多数、体温計のない人、マスクのない人がいた。マスクをつける様に伝えてもつけない利用者もいた、現在でもいる。
14. 代替サービスについて、設備だけでも貸してもらえないかと思ったが、入浴の支援設備のあるところでないとならば支援が出来ない利用者について、通常の通所が終了した夜の時間帯、設備のみと相談したが、どの事業所がどのようなハードを持っているのかを知っておく必要があると感じた。
15. 明石の相談支援専門員は宣言後も通常通り動いてくれる相談員が多かった。訪問を控える様にと言われていた中でも、一緒に動いてくれる相談員が多く、ありがたかった。
16. 在宅の方のうち、利用者本人と母親が感染、父親のみ感染せず。本人と母親は入院、父親は在宅となったが、本人は身体と療育の重複の方、家族曰く、ちゃんと治る前に退院させられた。Dr に「こんなんずっと見られへんわ」と言われたと。2 回目の検査の結果が出ないうちに退院させられ、サービス利用希望されたが、対応が困難。受け入れたいが、既存の利用者への感染リスクを考えると、断らざるを得なかった。
17. そういう相談を受けた時に、どう答えたら良いか。状況を理解し、対応しないとイケないが、もし施設でその状況の方を受けて、他の利用者・職員が感染したらと考えた。そういう時にどこに相談し、対応することが出来るのかと思った。その方はその後回復されたが、考えさせられた。
18. 当施設は、利用者 120 人。職員入ると 200 人近い大規模施設。法人全体で、宣言発令中は可能な限り在宅で過ごすように家族に依頼、それが難しい人は利用してもらっていた。第一波の時はこの後どうなるか、と思い、自粛要請に応じてもらっていた。重度の方が多いので、慣れるほど家でずっと過ごすことには限界があった。直近の宣言中は自宅待機は 120 名中 20 名～30 名。その他の方は通常通り通所。
19. 家族から、「もし家族が感染した時に対応してもらえるのか」との問い合わせあった。また、「本人が感染しても絶対入院できない、その時に対応してくれるのか」との問い合わせがあった。GH10 か所、入所 1 か所あるが、住まいの場に新型コロナを持ち込まないことを最優先にしてきて、困った時はサポートしたいと思い、受け入れたいが、感染者を受け入れると入所者、利用者のリスクが高まってしまふ、そのはざままで悩んできたし、福祉施設職員として、何とか受け入れますと言いたかったが、言えなかった、そのしんどさ、もどかしさがあった。
20. 当事業所では通所と短期入所をしているが、新型コロナの影響で予約していたがキャンセルした方もいた。本来は家族の負担軽減や緊急時のレスパイトの目的があるにも関わらず、新型コロナになると利用を控える人がいると、本来の制度、サービスの在り方が違う方向に行っているのは辛いと感じた。
21. 最近増えているのはワクチン接種の相談。病院に行き受けることは難しい、副作用のこともあり、接種後病院で様子を見ないといけないとも聞く。集団接種が出来たら、団体の中で受けさせたいとの要望。
22. 50 名の入所者。重度知的が主。一つは、利用者の外出制限。今までだったら週末にヘルパーと出かけたりしていたが、利用者が制限されることを理解できず、不安定になり窓等を叩き続けるといった状況があった。何名かいらっしや。どこまで僕らの判断でできるのか、宣言中の制限について考えさせられた。近隣のスーパー等は通常通り開いているのに、一方的に言いすぎるのはどうなんだろう。施設に入っているがゆえの制限。
23. 感染対策も、マスク着用が難しい利用者がほとんど。保健所の視察があり、マスクをしてほしい、ソーシャルディスタンスを取ってほしいと言われたが、それでは介護できない。アルコール、石鹸等を設置できないので、感染対策としては難しかった。スタッフが首から消毒液ぶら下げる状況。
24. 自宅療養について、利用者にとっての自宅は施設との考え。施設としては感染すれば入院させてほしいとの思いも

ありつつ、実際は入院できないので、利用者を施設で見ることになるだろうと。その場合の感染予防の物品、ゾーン分けをどうするのか。保健所等にアドバイスをもらいながら、コンテナハウスを設置し、ゾーン分けをしている。

25. 保健所から、PCR 検査を受けさせてもらえる医療機関を探す様に言われたが、どう探すのか。受けさせてくれない現状もある。どう対応したらいいか。近隣の高齢者施設でクラスターが発生したと聞き、実際の対応を聞いてみると、相当数の職員数が必要と聞いたが、職員に濃厚接触者が出たりすれば、職員総入れ替えとなり、人員をどう手配するのか。
26. 1泊2日、夕方みの固定利用者はお断り、両親が入院したといった事情の方のみ利用受入れとした。また、利用者が日中他事業所に通所している場合、ショートステイ中は外出しないよう制限。感染したまたは疑いの利用者の受け入れができるとはまだ言えない。今後どんな対策をとっていきべきか。
27. 利用者からすれば、いくつかの選択肢（ヘルパー、ショートステイ等）があれば良いのではと思う反面、具体的な話には進んでいない。非常時の対応について、ネットワークでカバー出来る様な仕組み、代替サービスについて、何か仕組みが出来ればと思う。
28. 1回目の宣言後は閉所。6月1日から通常営業。利用者が消毒、マスクの使用が難しいのは同じ。マスクを口の中に入れてしまう人もいる。
29. 1日3回検温。何が正解かわからない中、後追いの対応にせざるを得ないと感じた。
30. ワクチンに望みを感じているが、インフルのワクチンでも高熱が出た利用者があり、懸念している。
31. 企業からの作業提供の減少。作業が全くもらえなくなった企業もある。在宅ワークは無し。ニーズも無く、早く通所したいというニーズが高かった。
32. 病院でもマスクが足りない時期があった。その後政府から提供があり、対応できた。地域で外来患者で熱や食事が摂れていないとか、妄想のある人の受け入れを他の患者への影響を考え、訪看が対応している中、受け入れができなかったのが申し訳なかった。別の大きい病院で対応してもらった方もいる。2月から職員全員がPCR検査を受けている。陰性確認して、風邪症状があれば、個別の判断でPCR検査を受けてもらっている。
33. 入院受入は、個室が無く、ゾーン分けも難しく、マスク着用が出来ない患者がほとんどのため、外来でPCR検査を受け、陰性確認後に受け入れることにしている。転院も、今入院している病院でPCR検査を受けてもらった後の受け入れ、または個室対応できるタイミングで受け入れるなど、院内感染リスクを下げる様にしている。
34. 感染対策は看護部が対応にあっている。熱発者の隔離室、感染者が出た場合の職員の待機場所をどうするか。入院患者の活動は、OTはかなり制限されている。病棟内のみ、回数も減らした。患者のストレス増大。面会は、ほぼ1年面会制限をしている。オンライン面会などもしておらず、ハード面が未整備のため、いつになったら面会できるのかと一日に何回も様子を尋ねる問い合わせがある。
35. 事業所内について、部屋に応じた換気が出来ているのかと調べてもらったら、換気が不十分のため、工事をした。毎日3時間おきにCO2濃度を把握している。換気することの難しさ。利用者は風邪をひく方が少なく、インフルになる方もいなかった。日ごろの消毒が予防になっている。
36. マスクが出来ない利用者が何人かおり、練習した。何人かはマスクが出来るようになったことで家族で買い物に行けるようになったり、手洗いがきちんとできるようになったことを、家族から感謝された。今後も続けていこうと。食事介助等でゴーグル使用したが、食欲減となる利用者もいた。徐々に慣らしていくようにしていく状況。
37. 送迎車の消毒と検温が一番難しい。換気も出来ない状況なので密を避けられないという課題。
38. 事業所、ヘルパー都合で穴が開かないように努めている。コロナが心配で休んだヘルパーは1名、他は通常通り。消毒液1本を常に携帯してもらった。困ったことはなかったと言えば無かった。移動支援の利用者には自宅で検温、さらにサービス開始時に検温していたが、受け入れてくれない人の対応に困った。体調不良者に対するマニュアルは無いが、体調不良者宅の訪問は自分（管理者）が対応。安全の確認後、ヘルパーを派遣。
39. サビ責が検温等利用者の体調チェック。担当ヘルパーの対応が難しい場合、サビ責が対応。発熱している利用者への対応は、防護服等で感染リスクに配慮し、市に連絡を取りながら対応する方針。感染対策のマニュアル作成。

ヘルパーに周知。市が送ってきたマニュアルを活用している。

40. スタッフが電車通勤。1 回目の宣言時は人が減ったが、2 回目宣言時は人が減らず。心配だったので、時差出勤可とした。皆さん生真面目で変化なし。徒歩通所の方も車送迎で対応。
41. 感染疑いの方・・・別室対応、事業所内にスペースがなく、利用を控えてもらうなど。
42. 感染対策の防止委員会（月 1 回）。静養室を体調不良者の対応する部屋とし、担当スタッフを固定、入口から静養室の動線を確保。食事や活動スペースにパーティション、シールド。食事介助はマスク+フェイスシールド、マスク+ゴーグルを徹底。万が一出た場合でも、濃厚接触を減らす工夫。職員の危機管理に対する意識が時間の経過やイレギュラーな事象によって緩むことがあった。朝礼で繰り返し注意点を喚起。
43. 基幹 C での相談支援件数は前年比 1.3～1.4 倍くらいに。相談が多かったのは、自粛が始まってから通所が止まっている、ヘルパーや訪看が来てくれない、普段働いている家族が家にいることのストレスなど、不安を訴えてくる方が多かった。家族間の衝突、工賃が入らないなど。障害のある人、その世帯が社会的孤立、行政や支援者以外、つながりの希薄さを感じた。障害福祉サービスしか繋がりが無い人が多数。社会的な孤立、困窮。これから何をすべきか考えさせられた。
44. 本人のみが自宅に取り残された場合の対応は明確な答えはない。起こった時に考えるしかない。想定しておかなくてはならないが、事前に決めておくことが難しい。誰がやるというより、支援者間で協力して対応するしかない。障害福祉課に相談したケースは 1 件。1 人 1 人経済状況、家族状況が異なる。

令和2年度 明石市地域自立支援協議会

くらし部会 リポート Vol.39 令和3年3月31日

発行元：明石市地域自立支援協議会くらし部会事務局（明石市基幹防災支援センター）

住所：明石市貴崎1丁目5番13号（明石市立総合福祉センター1階）

電話番号 078-924-9155 ファクシミリ078-924-9134

【意見投稿用アドレス】 akashi_jiritsushien@yahoo.co.jp

会員専用のメールアドレスをご用意していますので、皆様からの情報提供や意見をお待ちしています。

みなさま、こんにちは！くらし部会です。

2020年度の地域自立支援協議会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、ほとんど活動出来ないまま1年が経過してしまいました。そのような中、3月10日に開催したくらし部会本会議について、部会長の鳥居健一さんよりご報告いただきます。

約1年ぶりの開催となった「くらし部会」。

その形はパソコンの画面越しという今まで体験したことがないような形での開催となりました。しかし、各分野で働く方たちと、この間の対応や困りごとを共有する中で、自分たちだけではなかったという安堵感を得ることが出来ました。

また、誰のためのくらし部会なのか？という事を改めて考える機会にもなり、これからは「当事者目線」での活動が大きなテーマとなってくることを確認することが出来ました。

当事者からの「家族が新型コロナウイルスに感染し介護者不在となった場合、私は一体どうしたらいいですか？」「介護者不在となっても困らなくていいように、今何をしてあげればいいですか？」という問いに対して、私たちは今後何を伝えることが出来るでしょうか。重度障害者にとって、介護者不在となる状態は「家族が居なくなった将来の自分の暮らし」と直結してくる大きな問題です。今回の新型コロナウイルスの感染拡大により、様々な機関から寄せられた声を聴くことで、「重度障害者の地域での暮らしは、家族の支えによって成り立っている」ことを実感しました。そのことに対して当事者はどう思っているのでしょうか？私たちは当事者目線で考えた答えが出せるのでしょうか？これは地域全体に鳴らされた警鐘であるかもしれないのです。



オンライン会議に
臨む鳥居部会長



しごと部会

1. 新型コロナが怖くて事業所に通えてない。相談支援事業所の相談員さんが家に来られたら怖いので、郵送でやり取りしていて、なかなか支援者と繋がれないことが発生。通所できないから在宅支援をしているところも多く、ただ月何日かは通所が必要だが、それさえも怖いのでサービスが中断。
2. 知的の方のご家族から「事業所の関係が遮断されると情報が入らず孤立してしまう」との相談があった。
3. 本人たちに必要な支援が行き届いていない。困っている状況をどうにもできない。孤立が出てきている。
4. 半日支援の事業所も多くあったが、支援が進まず、（就労）移行から就職に繋がらない。一般の人でさえ難しいので、就労移行も厳しい状況が続いている。（就労）移行は給料が出ないことが、ご家族の負担になっている。
5. 在宅で居られる方は、テレビの情報だけ入って、家族ともしんどい状況続いたり。B型で外に行く作業ができない。受け入れ先もストップ。
6. 余暇で外に出ることが難しい状況。何らかのストレスを今も感じている。
7. 大幅な3年生の進路決定を保障しようとして、ほぼスケジュール通りできたが、緊急事態で1～2年生のことが動けなかった。実習も大幅に変更を余儀なくされた。今、年度末だが、実習に行っている。それでも今年度中に実習できない子も数名いて来年に先送りもあった。
8. 家庭でもともと何かあったと思うが、家庭内のいざこざが頻繁にあって、前半はこどもセンターとのやりとりが多かった。1年間一度もコロナ不安で来ていない。通学バスも乗れずにずっと保護者が送迎。
9. 修学旅行はディズニーから淡路一泊に。県下では行けていない所もある。すべての行事がほぼなくなる。
10. 難病の方とか、目の不自由な方とか、合理的配慮で認めて頂いて、在宅支援はスムーズにできた。みんな「施設にきたい」と言うので、在宅で仕事する方は少なかった。
11. 送迎では運転手が密なことに不安を感じている。車は密室になるので、感染対策が難しい。他の事業所では辞めた方もいる。ほんとにクラスターが発生したらどうしたらよいかと思う。
12. 娘は実習で風邪をひいた。母も熱があった。そんな場合にどうしたらいいか。保健所にかけて、病院ありますかと。娘の場合は、実習先のこともあるので、PCR検査を受けましょと。結果は何もない。
13. 新型コロナになってから、在宅支援だったらB型利用が可能かもしれない方からの問い合わせがかなりあった。普段、家から出られない方。しかし月何日か通所となると断念してしまう方も何人かいた。
14. 「すべて在宅でできるんだったらB型を利用できそう」という方の問い合わせあるが、決まりがあるのでというケースがあった。
15. 新型コロナで1名だけ週1日も来てもらってない。満員電車が怖いから。月1日は来てもらうことになっているが、家族が体調を崩して、結局来てもらえない。電話は毎朝・夕、毎日してもらう必要あり、家の中は良く分かるようになったが、果たしてこのまま続くどうなるのか。
16. 4～5月は在宅支援で、近隣のみ通所にして、それでも作業は止められないので、支援員が代わりに作業をしながら、作業を持っていくこともできない。作業はしていないが課題はやる。費用を分担。このままできると、仕事する、それに対しての収入が入ってくるから保障する。しかし、在宅の人に何も作業を提供できていないのでどうするか、課題をやっていることに対しては費用は支払った方がよいかということで安い金額で。通所時とあまり変わらない。通所時は毎日来ていないので、余計に通所してくる意味があまりないという人もいると思う。
17. あくとは一般で働いている方をサポートしているが、働いている方は余暇ができてないことがストレスかなど。電話で声を聴くときも、遊びに行きたいけどできず、ストレスがたまるとの声が多かった。それが出来なかった時、いつになったら再開するのか。人と話すことがいかに大事かを思い知らされた。
18. 企業就労において、あくどが関わっている中では、解雇は無かった。HW明石でも障害者雇用での解雇を聞かなかった。ただ、体験実習や実習など、企業の手控え感があった。
19. 新型コロナの影響で鬱的な症状が多く、それに伴い休職がこれまでよりも多かった。休職に至らないまでも何日か

休む、一日に何度も不安であくどに電話する方も。

20. 良いところと言うと、企業の事務系仕事在宅ワークになって、うまくいっているところもあり、実績のある企業さんや新たな企業に在宅ワークの提案ができるかなと思う。
21. 4月に宣言で家に引きこもる。会社も在宅ワークになったが、聾の場合、電話を受けることもできないし、ラインの簡単なやりとりだけに。会社のPC持ち帰り、サーバーのネットワークを使えないので、仕事がすごく狭まる。在宅ワークも時間が短く、会社も時短に。通勤するが職場のみなさんがマスクをして話をするので、最初はマスクをとって話してくれる方も。第2波の時は皆さんマスクをしているので、私も気を使ってスマホにUDトークというアプリを使って、話したことをスマホが言葉にして、他の聾の方もコミュニケーションしていると聞いた。UDトーク、聞こえない人は使っているアプリ。結構、はっきりと話をしてくれる。
22. 買い物に行った時にもレジで話しかけられても分からないことも多く、聞こえませんと事前に言ったり、指先や身振りで教えてくださいと伝えている。みなさんやったださって、繰り返していきと皆さんの対応も変わってくる。重複障害の言語聴覚者協会の介護のセンターがあるが、訪問し、初めはコロナのことが何のことか分からないので、情報が入ってこないことがあると説明を受けた。情報が入りにくい。言葉自体の意味を理解することが難しい。知事の会見も最初は手話がついていなかった。全国的につけてほしいと思う。今はついてるかなと。
23. 別の事業所から内職をいただいて、家庭に届けるので普段見えない家庭が少し見えた。
24. 就労移行は、例年通り7名就職。ただアフターフォロー、定着支援は自由がきかないところがあった。特に高齢者施設関係は、施設の中には入れないので、軒下面談、車中面談、メールでのやりとりなど。逆にこういう手段も使えるなど。次年度、極力メールでやり取りする中で、ヘルプコールが拾えれば。実習先はちょっと自由が利かなかった。実習と言うところでは手を付けられなかった。
25. 来年度に向けて、在宅支援の内容って、明石市からでいいのか。家で内職作業って、できる仕事とできない仕事がある。この部分はできるけど、ここはできないこともある。材料を置かれて、なかなか最初から最後までできないものもある。お母さん方にも必死になってしてもらったこともある。
26. まず作業内容が変わり、量が減っているんじゃないかなと。B型の方は特に。そういう中で、販売経路を確保しながら動いていくか。
27. 在宅でも定時に電話、作業を提供すること、利用者が在宅であるということは、職場以上に仕事をしないといけなかったり、すごい忙しい1年だけお金は入ってこない。
28. お祭りがなくなったのが大きくて、地域貢献を考えた時に、前は集まる場があったが、今年度は企業と知り合えるきっかけづくりを根こそぎ奪われた。販売という意味でも、お祭りが大きかった。すべて無くなるし、今後も難しいとなると。
29. (新型コロナの) 怖さというところで、2回ほど勉強会をした。職員へ伝達研修する中で怖さが減っていった。なぜうつらなかったか、みんなうつっているのに。そのランク、症状に応じた対応の仕方がある。共有してから、職員の恐怖心が和らいた。支援に対して前向きに。
30. 祭りが無い。販売が無い。クッキーは売り場が無かった。ピンチをチャンスに、販売が無いのであれば、注文販売にしようか。たまたま大久保地区には保育所が多くある。コンビニより保育所が多い。高齢者施設も点在している。1日20件位訪問して2日かけて、8事業所に注文頂いて、リピーターとして注文頂いた。サンプルを持って行って営業して、近隣の社会資源と近づけたかなと。プラスの部分。次年度もそんなに販売活動できると思っていないので、極力地域と販売を通して連携みたいなことを考えている。

令和2年度（2020年度） 明石市地域自立支援協議会

しごと部会 リポート Vol. 29 令和3年（2021年）3月31日発行

発行元：明石市地域自立支援協議会 しごと部会 事務局（明石市基幹相談支援センター）

住所：明石市貴崎1丁目5番13号（明石市立総合福祉センター 1階）
電話番号：078-924-9155 ファクシミリ：078-924-9134

【意見投稿用アドレス】 akashi_jiritsushien@yahoo.co.jp

会員専用のメールアドレスをご用意していますので、皆様からの情報提供やご意見をお待ちしています

令和2（2021）年度の振り返りと令和3（2022）年度の活動に向けて

しごと部会部会長の山崎です。令和2年度の地域自立支援協議会及びしごと部会の活動は、新型コロナウイルス感染症の影響により活動の休止を余儀なくされました。利用者や家族の日常が大きく変わり、これまでに経験したことのない事態に不安を抱えた一年だったと思います。

先日、今年度初めての本会議を行い、委員のみなさんよりご意見をいただきました。まだまだ再スタートとはいきませんが、後ろを振り返りながら先を見たいと思います。

次年度の活動についてですが、「明石就労支援ネットワーク」は、明石市内の就労に携わる関係機関同士のネットワークの構築と、更に一步進んだ議論をするためにこれまでのしごと部会の活動から独立していくことになりました。

今後は、明石市障害者就労・生活支援センターあくとの活動として、取り組んでいきます。

しごと部会としては、これまで通り、福祉的な就労から一般就労まで幅広く就労を捉え、活動を進めていきます。特に一般就労に関する場合は、明石市障害者就労・生活支援センターあくにご協力をいただき優先課題に即した活動を企画し、明石市の障害者就労の充実に取り組んでいきます。

「B型事業所ネットワーク」は、工賃向上に向けた（販売）活動だけに限らず、一般就労へのきっかけとなる活動を見据えB型の出口を準備できるように検討していきます。次に「チャレンジウィーク（企業での就労体験の機会）」は、これまでの“会社で働いてみたい、実際の仕事を知りたい”という体験的な活動から、就労移行として一般就労への第一歩となるような機会を提供していきたいと考えています。

「はたらくなまのつどい」は、コロナ禍でどのような活動ができるのかを当事者と共に検討していきます。

しごと部会は、障害種別問わず、「めざせ就労」をスローガンに当事者一人ひとりが住みなれた明石で働くことを目標に「何ができるのか」を検証し、多様な働き方を実現できるような体制と活動を検討していきます。



山崎部会長

令和2(2020)年度 しごと部会 活動実績 自主製品販売活動

新型コロナウイルスの感染拡大の影響と活動自粛により、販売活動の機会が減っている中、B型事業所ネットワークでは、県立高校（明石高校・明石清水高校）内の販売とコープこうべ5店舗（朝霧・大蔵谷・西明石・大久保・魚住）での販売に取り組みました。



【県立高校販売(令和2年4月～令和3年3月末開催)】

1) 明石高校 参加事業所：8事業所（サポートセンター曙、ステップあつぷ西江井島、こぐまくらぶ明石ウエスト、ピアスペース西明石、ふれあい作業所、さくら工房、きっちんそら、明石錦城の園）

2) 明石清水高校 参加事業所：11事業所（サポートセンター曙、ステップあつぷ二見、こぐまくらぶ明石ウエスト、ピアスペース西明石、ふれあい作業所、さくら工房、明石錦城の園、ワークスペースななかまど、就労支援あーち、みちくさ本舗、木の根学園）

【コープこうべ 5店舗での販売 (令和3年3月11日(木)～3月25日(木)実施)】

参加事業所：11事業所（サポートセンター曙、ステップあつぷ二見、こぐまくらぶ明石ウエスト、ふれあい作業所、さくら工房、就労支

援あーち、きっちんそら、にじ作業所、ハッピークラフト、リーフあかし、木の根学園）

活動に関するお問い合わせ先：明石市地域自立支援協議会しごと部会 事務局

明石市基幹相談支援センター（担当：南部）

電話：078-924-9155 ファクシミリ：078-924-9134 E-mail：t.nanbu@pure.ocn.ne.jp

こども部会

1. 家庭の判断で感染を恐れ通所を休む子もいた。
2. 休校中の長時間対応可能な事業所を選択する方もいた。神戸市は一か所の通所にするよう（複数事業所通所を避ける）案内があった。
3. 休校中、家にずっといると、兄弟に暴力を振るう子もいるため、休校中に放デイに行けることで「ありがたい」、「家での行き詰った感じが無くなる」などの保護者の声が聞かれた。
4. 休校によって日常の流れが変わることで、精神的に不安定になり自宅でも大きな声を出す子もいた。
5. 中高生の親から、学校が休校になり、朝起きなくなり親が起こそうとすると暴れるとの声があった。
6. 生活リズムの逆転・ネットやゲーム依存・不登校からの回復困難なケースが多い。
7. 休校中、家から放デイに通所することに対して、学校に行ってから放デイに行きたいと言う子もいた。
8. 休校中は「学校に通いたい」との声が子どもから聞かれた。
9. コロナ禍前に、学校の後、放デイにも行っていたことがしんどかった子にとっては、学校がなく朝から放デイのみの通所になって落ち着く子もいた。
10. 昼夜寝ない子は、通常時は本人が（児童発達）通所している間に母が休めていた家庭については、緊急事態宣言下で事業所が通常開所できない状況でも、個別対応で子どもを預かって母の休息時間の確保を図った。
11. 休校中や、学級閉鎖中にたくさんのプリント課題が出されたが、発達障害の傾向がある子はそういった課題に取り組むことの苦手さから、自宅内で本人も親も大変だった。また、課題に取り組めない子に対して親の焦りや怒り、不満も大きかった。
12. 重度障害の子が多く通所する事業所だが、特別保育になり、通所を自粛している間に訪問リハ等受けていない子は身体を動かしていない期間が1か月ほどあり、体が硬くなり呼吸もしにくくなり、酸素濃度が下がってしまった子もいた。訓練や療育をせず動かさなかったら、重度化することが分かった。
13. ASD 傾向の子で、感染への恐怖で、過度な消毒や手洗いなど強迫症状が出た。
14. 学校での給食時のルールや休み時間の遊びの制限から、学校での楽しみが減り、行きしぶりにつながった。
15. 学校では子ども達同士の関わりの中で授業の活性化が図れるが、感染対策上、机を離し、前を向き、マスクを着けしゃべらずにという態勢での授業。子ども達のしんどさからクラスの落ち着きの無さにつながり、保護者の不安が煽られる。
16. 感覚過敏や ADHD 傾向の子はマスクを長時間つけられない。
17. 幼稚園で新型コロナが発生した際、マスクが苦手な多動傾向、行動範囲が広い子は、感染した子と別のクラスでも濃厚接触者になるケースがあった。
18. オープンスクールや参観日等が無いことによって、保護者が園や学校での子どもの様子や掲示物や作品を見る機会が少なく不安を感じる保護者が多かった。
19. 公立幼稚園での降園後の園庭開放が無く、親同士の交流を深める機会が無かった。
20. 毎月開催していた保護者会の中止など保護者間での交流の場が持たなくなり、保護者が不安で孤立してしまう状況。顔を見て話しがしたいとの意見が多かった。
21. これまで気丈で外に沢山出てスケジュールをたてていた母親が、この1年スケジュールがたてられない状況で精神的に崩れた。
22. 大学のリモート授業は、発達障害がある子にとっては伝わりにくいとの悩みが聞かれた。
23. 学校行事・参観・家庭訪問が無い為に保護者が担任を知る機会が無く、保護者と担任の信頼関係が築きにくい。
24. 次年度の就園・就学についての情報について、個別の情報提供はするが、母同士での情報共有や情報を咀嚼する機会が無かったために保護者の不安が強かった。また、入学前の体験入学や見学が無く、不安に思う子・親もいる。

25. 事業所に情報が入ってこなかった。特に休校期間中の請求については、神戸市は紙面での一斉説明があったが、明石市は一斉案内はせず、個別に聞くようにとの方針だった。聞くまでは教えてもらえなかった。
26. 事業所として外出をしない方針になった為、室内活動に変更することになった。
27. 4月中旬から5月連休明けまで閉所していた。その間は各家庭に電話したり教材のポスティングをして対応した。
28. 代替サービスを行い子ども達が少しでも通所している気分になれるように、HP に朝の会をアップしたり、体操や工作を伝え、夕方に母に電話してどうだったか聞いていた。
29. 子ども達の生活リズムを整えるために、朝目覚ましの意味も込めて Zoom か電話を事業所から自宅に入れ、1時間ほど話を聞いたりして対応していた。
30. 休校中に、子どもが外で遊んでいることに対して学校や教育委員会へ地域住民から苦情が入ることもあり、厳しい目が向けられていた印象。
31. 個別療育が個室の密室。感染予防にマスクをするが言語療法では口の動きの訓練ができない。フェイスシールドでの対応もしているが、感染への不安もある。
32. 子ども達の対応や療育をしている職員からも子ども達へ感染させてしまったら・という不安の中での支援をしている。
33. 感染対策を徹底し集団での密を避けるために、子ども達を別々に遊ばせたり、食事の介助も一対一に近い状態で対応が必要になったので、職員が人手不足に。
34. 感染対策として、職員をシフト制にした時期があった。そのために人手が足りない時間帯ができた。送迎や事務等現場はしんどかった。(特に電車通勤者は混雑外の時間に通勤できるように対応した)
35. 職員の中で子どもがいるパート職員は休みにしたり、妊婦の職員は利用者との接触をしない場所での勤務にしていたことでの人手不足があった。
36. 換気をすると、エアコンが効かず暑い時期・寒い時期ともに大変。
37. 子ども通所や療育中に保護者待合室が密になるので対策を検討しなければならなかった。
38. 不安な状況下で、職員と保護者の間に不信感があると心配が増える。普段からの信頼関係構築が大切と感じた。
39. 医師・看護師が居る事業所としては、すぐに相談できるので安心できる面もある反面、医療が全面に出て感染対策を優先しすぎると子ども達に触れられなくなってしまい、福祉サービス・療育の面から子ども達への関わりを検討する必要があった。
40. 療育の現場では、セラピストが、40分のセラピーの後10分の休憩中に子ども達が触った物全てを消毒するを何回も繰り返すことで疲弊。
41. 保育の現場では、子ども同士・母同士の交流を制限しなければならないことに疲弊。
42. 行事は、近くの公園への遠足で時間差で行ったり、室内の行事も日を分けて人数を減らして開催する工夫をした。
43. 研修会開催・情報共有・訪問での実態把握ができず、心苦しさがあったことと、問題が後から表面化することがあり、例年よりも後手の対応にならざるを得なかった。
44. WHO では5歳未満はマスク装着しなくてもいいとなっているが、保健所の基準はマスクなしで15分以上の接触は濃厚接触者になる。矛盾や不安を抱えながらの一年。
45. 幼稚園等で保護者に子どもの成長を見てもらう機会がとれず残念。今年は試行錯誤。
46. 中学校普通学級卒業後特別支援学校の高等部への入学を希望する子の保護者に対して、学校見学やオープンスクールも無く、来年度の予定も未確定なため情報提供ができない。保護者の不安を解消できず、学校側も苦しい。
47. 事業所職員の中に年配の職員がおり、その職員の家族から心配の声が聞かれた。
48. 相談機関については、電話相談が2倍ほど増。対面の相談では枠があるが、電話では長時間になりがち。
49. 相談者が医療職で感染の可能性があることを隠して相談されたことがあった。
50. 養育者が感染し、子どもの面倒を誰も見ることができないと保健所が確認した場合、こどもセンター・こども育成室が対応し、預かり先の確保を行っている。

令和2年度（2020年度） 明石市地域自立支援協議会

こども部会 リポート Vol.13 令和3年（2021年）3月31日

発行元：明石市地域自立支援協議会 こども部会 事務局（明石市基幹相談支援センター）

住所：明石市貴崎1丁目5番13号（明石市立総合福祉センター1階）
電話番号：078-924-9155 ファクシミリ：078-924-9134

【意見投稿用アドレス】 akashi_jiritsushien@yahoo.co.jp

会員専用のメールアドレスをご用意していますので、皆様からの情報提供やご意見をお待ちしています。

こども部会長の飯塚です。

こども部会の皆様、本当にお久しぶりです。

新型コロナウイルス感染症が発生して1年以上お会いしていないので、皆様の事業所のご苦勞を推測するばかりです。

心機一転、新たにコロナに負けない部会として、活性化できればと願っています。

しかしながら、このコロナ禍で協議会自体が動けなかったことは、申し訳なく心苦しく思っています。

「コロナ感染に関する対策」「こどもたちへの健康教育」「保護者への不安対応」「代替サービスの方法」「明石保健センターの最新情報」「助成金情報」等々、情報発信すべき時に出来なかった事は、残念ではありません。

どうしても気になっていた為、メールで一度だけ皆様に状況確認させていただき、代替サービスの状況などのお返事を頂きました。ありがとうございました。

さて、このコロナ禍の中、今後の「こども部会」をどのように運営していくかが大きな課題です。皆様にアンケートで「ズーム会議」を投げかけました。

実は、私はアナログ人間で、ズームやりモートやさっぱりわからない人間ですが11月に西宮で30名程度のメンバー参加での会議をズームで実施しました。進行もスムーズで、初体験の私も大変感激しました。

情報交換をしないよりは、何らかの方法で実施すべきだと思います。この大変な時期を遅ればせながら、皆さまと共に、乗り越えていきましょう！！



こども部会 部会長
飯塚 由美子
(社会福祉法人
三田谷治療教育院 理事長)

令和2年度第1回「こども部会」本会議開催報告 令和3年3月16日

▼ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「こども部会」での会議や活動が休止しておりましたが、3月16日に「こども部会」本会議を行い、活動が再開されました。

▼ 会議では、コロナ禍において、各委員がそれぞれの立場で感じ、聞き、見てきた「こども達やそのご家族の現状」や「支援の現場での苦勞や工夫、対応の状況」についての情報共有を行いました。その中で、子ども達やご家族、支援者側も不安や葛藤の1年だったこと、ただその中に新しい繋がり方や支援の工夫を見出しつつあることを皆で共有することができました。

▼ 令和3年度は、創意工夫をしながら、「こども部会」としての活動を行っていきます。

